

Physiology は今年度も順調に刊行されておりますが、Plant and Cell Physiology をさらにすぐれた国際誌として発展させていくために、会員の皆様の御投稿と御協力をお願いします。

5. 会員の現況と新入会員

	1988年末	新入会員 (1989. 1. 1~10. 20)	計
通常会員(国内)	1040	79	1119
通常会員(学生)	209	71	280
通常会員(外国)	317	46	363
団体会員(国内)	162	4	166
団体会員(外国)	775	48	823
賛助会員(口数)	63(64口)	1	64(65口)
計	2566	249	2815

新入会員 (1989. 5. 21~1989. 10. 20)

通常会員 (国内)

鍵 田 文 子 (農業生物資源研究所)
 桂 幸 夫 (江南市村久野平野 1 番地)
 酒 井 進 吾 (鐘紡株・生化学研究所)
 篠 沢 隆 雄 (群馬大・工)
 杉 本 美 穂 (片倉工業株・中央蚕研事業所)
 杉 山 健一郎 (国立公害研究所)
 中 村 卓 司 (北海道大・農)
 アレキサンダー・ハンセン (農業研究センター)
 松 本 亮 司 (果樹試験場口之津支場)
 吉 田 考 (東北大・農)

通常会員 (学生)

東 江 栄 (九州大大学院・農)

団体会員 (国内)

神奈川大学 平塚図書館

通常会員 (外国)

Ami Ben-Amotz (Israel Oceanographic & Limnological

Research, Israel)

Daniel J. Cantliffe (Univ. of Florida, U. S. A.)

J. W. M. Derksen (Catholic Univ., Holland)

Leland N. Edmunds (State Univ. of New York, U. S. A.)

Michael Friedlander (Israel Oceanographic & Limnological
 Research, Israel)

Leslie H. Fuchigami (Oregon State Univ., U. S. A.)

Vilgilio V. Garcia (Inst. of Food Science & Technology,
 Philippines)

Adrienne R. Hardham (The Australian Natl. Univ.,
 Australia)

Jorn Johansen (Denmark)

Helen G. Kiss (Ohio State Univ., U. S. A.)

William J. Lucas (Univ. of California, U. S. A.)

James V. Moroney (Louisiana State Univ., U. S. A.)

Barbara Prezelin (Univ. of California, U. S. A.)

T. A. V. Rees (Univ. of Auckland, U. S. A.)

Nurit Roth-Bejerano (Ben-Gurion Univ., Israel)

M^a Terresa Piñol Serra (Labo. de Fisiologia Vegetal, Spain)

P. D. Shargool (Univ. of Sask., Canada)

Andreas Sievers (Universität Bonn, Germany)

Roland Valcke (Belgium)

E. W. Weiler (Ruhr-Universität, Germany)

Frank Wightman (Carleton Univ., Canada)

団体会員 (外国)

Swets Subscription Service (Holland) 2件

Berhampore Univ. (India)

Allied Publishers Limited (India)

Scientific Publishers (India)

Seoul National Univ. (Korea)

Univ. of the Philippines (Philippines)

C. N. P. PC / Ecole (Tunisie)

C. N. P. P / C E. N. I. S. (Tunisie)

HI-PRO UL Ltd. (U. S. A.)

John Carroll Univ. (U. S. A.)

英文校閲科の著者負担について

日本植物生理学会の会員の半数近くが外国会員であり、Plant and Cell Physiology の著者の約3分の1が外国会員であることは PCP が国際誌として高い評価を受けていることのあらわれであります。日本で発行されている学術誌のうち

国内会員が1,400名余で、これだけ多数、外国で購読され、外国から投稿のある学術誌は他になく、この点は私達の学会の誇りとしてよいかと思えます。これも、PCP に秀れた論文を投稿してきて頂いた著者、投稿論文の校閲、印刷などの

お世話をしてくだり頂いた編集長、編集実行委員、編集委員のご尽力の賜物であり、これからも PCP を国際誌としてさらに発展させ、植物や微生物の生理学、生化学、生物物理学、化学、分子生物学、細胞生物学、遺伝子工学の研究、国際交流に寄与することが重要と考えております。

しかしながら、外国会員からの会費はドル建てであり、最近の円高基調のため外国会員からの収入が激減し(10万円高になることによって100万円の減収となります)、さらに消費税による支出増も加わって財政的に困難な状況に至っております。このような状況に対し、会員増、広告増の努力、投稿論文のフロッピー化による PCP 印刷費の軽減、その他によって収入増、支出減の努力を行ってまいりましたが、1987年に引き続き来年度からも会費値上げをお願いせざるを得ない状態となりました。

このような状況の中で収入増をはかるため1989年度評議員会にて来年度からの会費値上げと共に従来学会が負担しておりました PCP の英文校閲料を著者に負担して頂くことが決まりました。この決定に至るまでには種々議論がございましたが、上記のような財政状況のもとではやむを得ないのではないか、さらに投稿論文の英文は内容と共に著者が責任を負うべきものではないか、とのことで最終決定に至った次第です。研究内容が読者に理解されやすい正確な英文で表現されていることは国際誌として重要であり、PCP はこれまで学会負担で掲載論文の英文校閲を行ってまいりましたが、これも PCP の国際誌としての評価を高めてきた一因と考えられます。それを著者に負担して頂くことをお願いする訳ですが、上記の諸事情をご賢察の上、ご協力の程お願い申し上げます。

英文校閲料は1990年1月1日以降に受け付けた論文から著者に負担して頂くことに致しました。投稿論文の審査が終了し、内容的に掲載可となった段階で編集委員会から英文校閲者に論文が送られます。校閲料は論文の長短、英文修正の必

要度によって異なり、校閲者の修正に要した時間に基き各原稿ごとに請求されます。これらは別刷代その他と共に学会本部から著者に請求書をお送りしますので、それに従ってお支払い下さいませようお願いします。

ただし、たびたびお願いしていますように、投稿前に、英語を母国語とする、とくに関連領域の研究者によってあらかじめ校閲された原稿を投稿して頂ければ、英文校閲を省略することができます。しかもそれによって学会による英文校閲・著者確認に要する時間を短縮することができます。審査に要する時間をも短縮することができます。予め英文校閲を受けて頂くと審査、最終決定の時間が大幅に短縮され、それだけ早く研究成果が印刷される利点がありますので、できる限り英文校閲のすんだ原稿をその旨ご指摘の上、ご投稿下さるようお願い致します。

以下に英文校閲者の一つをご紹介しますが、校閲については学会、編集委員会は関与しない個人ベースで行って頂くようお願いいたします。

Dr. Ann M. Korner, Bioscript, 71 Blake Road, Hamden, CT, 06517 U. S. A.

条件は、\$40/hour, maximum charge \$8.00/page, including return postage by air. です(発送から受取まで約2週間)。校閲論文と共に請求書が送られてきてから支払。\$20 extra を支払い、International Express Airmail で送付するよう原稿送付のときに依頼すれば2~3日でUSから日本に送られます。

本学会はこれ迄 PCP 投稿著者に対して別刷200部を無料進呈し、さらにページチャージ、写真製版代は無料としてきました。さらに最近多くなってきた電子顕微鏡写真のトーンを校正段階で選択できるようにしていますが、これらは今後も継続していく予定ですので従来通り PCP にご投稿下さいますようお願い申し上げます。

文部省学術情報センター著者用データシート記入のお願い

文部省学術情報センターでは学会で講演発表されたデータが学会に出席していない研究者、他の分野の研究者にも利用できるようにするため、これら学会発表の内容をデータベース化することを計画し、一部実行されています。また、日本の学会で講演発表されたデータが国際的にも利用できるよう英文でのアブストラクトもデータベース化しています。

日本植物生理学会では運営委員会、常任評議員会において学術情報センターからの講演発表された研究内容のデータベース化についての協力依頼について検討した結果、年会で

発表された研究内容が国内外のより広い範囲の研究者に利用できるようにすることは学会のためにも、研究者個人にとっても有益であるとの結論になり、学術情報センターのデータベース化に協力することになりました。このため1990年度の年会から、通常の子午の講演要旨の他に学術情報センターのデータベースとなる和文、英文のアブストラクトも提出して頂くことになりました。上記趣旨をご理解の上、下記要領に従い同封の学術情報センター著者用データシート(茶色用紙)にご記入の上、年会講演要旨(青色用紙)に同封して講演要